



新刊

プラスチック問題のすべてがよくわかる『プラスチック・フリー生活』

訳者 服部 雄一郎

NHK出版 2,160円

3年半ほど前のごみっと・SUNで、訳書『ゼロ・ウェイスト・

ホームごみを出さないシンプルな暮らし』(アノニマ・スタジオ)をご紹介いただいた服部です。覚えてくださっている方もいらっしゃるでしょうか？

このたび、NHK出版より新しい訳書『プラスチック・フリー生活』を刊行しました。おかげさまで刊行1カ月で増刷され、さまざまな新聞・雑誌に取り上げていただいています。

原著者は、カナダ人のシャンタル・プラモンドン&ジェイ・シンハ。プラスチック・フリー生活のためのオンラインストア(lifewithoutplastic.com)を営むご夫婦です。

マイクロプラスチック汚染、添加剤の危険性、廃棄やリサイクルの問題点、バイオプラスチックの可能性など、プラスチック問題の重層的なポイントがバランスよく網羅されていて、日々の暮らしをプラスチックフリーに近づけるための具体的なアイデアも満載、ごみかん会員のみなさまにもきっと楽しんでいただける一冊です(プラスチック問題の深刻さには圧倒されますが…)。

プラスチックの「何」が問題なのか？

G20大阪サミットでも主要テーマのひとつとして取り上げられ、プラスチック問題に対する認知は飛躍的に高まりつつある昨今ですが、メディアによる報道はどうしても断片的になりがち。私自身、これまでごみ問題に関わってくる中で「プラスチック=問題含み=減らさなければ」とは思い続けてきましたが、具体的に「どこがどう悪いのか？」となると知識はあやふやで、その全貌が理解できているとは言えませんでした。

それが本書のお陰でかなりクリアになった気がします。とりわけ知識が足りていなかったなと思うのは、内分泌攪乱物質をはじめとする添加剤による危険性や、プラスチックの種類別の特徴です。

本書は15種類のプラスチックをピックアップし、その危険度を「絶対避けたい」から「比較的安全」までとてもわかりやすくまとめてくれているので、日常生活の「注意すべきポイント」がよく見えてきました。本書を訳して以降、プラスチックの「素材」に目が向くようになり、そのリスクをより正確に判断できるようになったのは大きな収穫です。

消しゴム、アルミ缶、レシート、ティーバッグが…

訳者あとがきにも書きましたが、子どもが使っている消しゴムの大半が「絶対避けたい」とされているポリ塩化ビニル(PVC)製であったことは大ショックでした(「プラなし生活」という日本語のすばらしいサイトを参考にして、大慌てで天然ゴム製の消しゴムを買い求めました)。

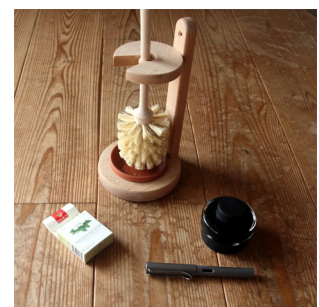
また、アルミ缶や缶詰の内部に内分泌攪乱作用のあるプラスチックコーティングが施されていること、レシートや紅茶のティーバッグの紙、ガラス瓶の金属蓋にもプラスチックが使われていること、化繊の服の洗濯によって毎日知らず知らずの間に信じられない数のマイクロプラスチックをまき散らしてしまっていること、プラスチック製の歯ブラシやデンタルフロスを使うことで、マイクロプラスチックを毎日飲み込んでいくかもしれないことなど(ご存じの方にとっては当たり前かもしれませんが)、自分にとってはインパクト大の発見がいくつもありました。

やはり「知る」ということは大きいですね。すばらしきインターネット時代ですから、調べようと思えば、いくらでも追加情報は手に入ります。問題意識が一段アップした今、もっときちんと調べて、より自覚的に暮らしていこう+アクションを起こしていこう、と思うようになりました。

「脱プラスチック」は容易ではありませんが、意識すればできることはいろいろあります。上述の「プラなし生活」や、若い環境グループ「スパイラルクラブ」のサイトなど、日本語の良質なリソースも雨後の筍のごとく誕生しています。いい情報やアイデアをたくさん吸収して、日本にもプラスチックフリーの明るいウェブを起こしていきましょう！

*おすすめサイト

- ・プラなし生活 <https://lessplasticlife.com/>
- ・スパイラルクラブ <http://spiral-club.com/>



プラスチックフリーグッズ